敷地における地質調査

○敷地における地質調査としては、伊方発電所原子炉設置変更許可申請時(3号炉)に、地表弾性波探査、ボーリング調査、試掘坑での調査等を実施するなど、敷地の地質・地質構造を把握している。

設置変更許可申請時の主な調査内容

【地表弾性波探査】

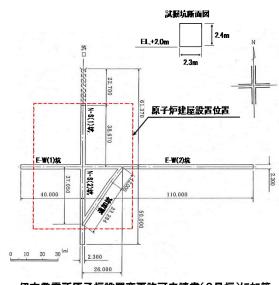
東西方向:11測線. 南北方向:12測線

【ボーリング調査】

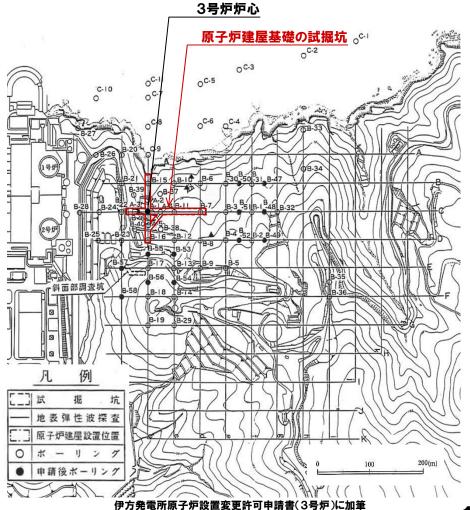
ボーリング調査は敷地内50m間隔の格子状建屋設置位置では総延長1500m

【試掘坑での調査】

建屋基礎コンクリート底面高さ(最下部EL.+0.6m)を考慮して EL.+2.0mに試掘坑を掘削。本坑約260m(うち斜坑30m含む) と追加坑40mの合計約300m

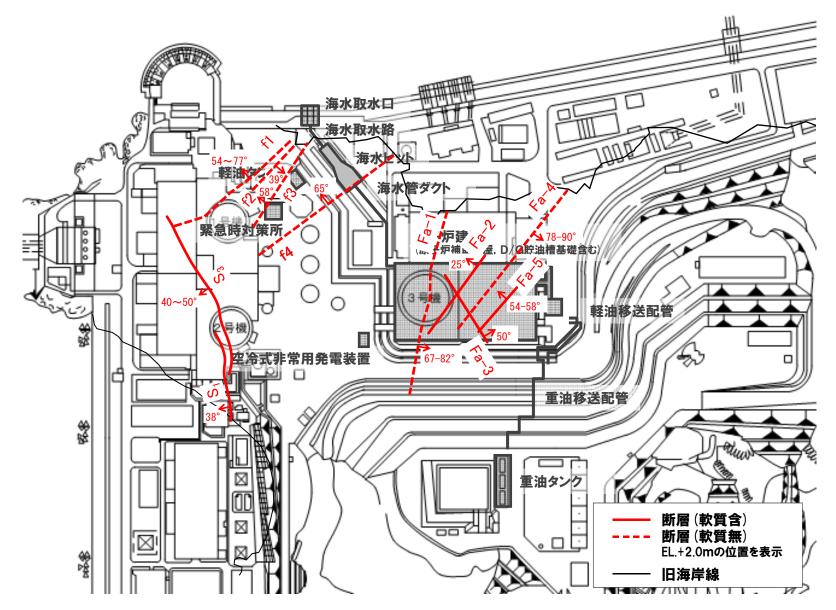


伊方発電所原子炉設置変更許可申請書(3号炉)に加筆



敷地における断層の特徴

○評価対象施設と断層の位置関係は下図のとおりである。



評価内容 すべり安全率

【基礎地盤のすべり】

○想定したすべり面上の応力状態をもとに、すべり面上のせん断抵抗力の和をすべり面上のせん断力の和で除して求める。

- ○すべり安全率が評価基準値1.5を上回ることを確認する。
- ○すべり面は. 簡便法によるすべり. 応力状態を考慮したすべり. 断層沿いのすべり等を想定する。

詳細データ集pp.68-75参照 (Ⅲ.2. すべり面設定の考え方)



4. 地震力に対する基礎地盤の安定性評価 (3)評価① 基礎地盤のすべり

評価結果 すべり安全率 原子炉建屋(X-X'断面)

		すべり面形状	基準 地震動	最小すべり 安全率			すべり面形状	基準地震動	最小すべり 安全率
	1	タービン建屋 原子炉建屋	Ss-1 (+,-)	3.6		4	タービン建屋 原子炉建屋	Ss-1 (+,-)	2.6
		基礎底面のすべり面					断層(軟質含)沿いのすべり面 (タービン建屋を含む)		
	2	タービン建屋 原子炉建屋	Ss-1 (-,-)	1.8 [2.1]		5	タービン建屋 原子炉建屋	Ss-1 (-,-)	2.5
		 断層 (軟質含) 沿いのすべり面 (モビライズド面を考慮したすべり面)					断層(軟質含)および断層(軟質無)沿いの すべり面		
	3	タービン建屋 原子炉建屋	Ss-3-1 (+,+)	1.9			: 級岩盤 Fa : 断層 : 級岩盤		
		 断層 (軟質含) 沿いのすべり面 (タービン建屋を含まない)							

- ※ 基準地震動の(+,+)は位相反転なし、(-,+)は水平反転、(+,-)は鉛直反転、(-,-)は水平反転かつ鉛直反転を示す。
- ※ 類似したすべり面形状については、安全率が最も小さいものについて掲載。
- ※「]内の数値は、「基礎地盤及び周辺斜面の安定性評価に係る審査ガイド」(原子力規制委員会、2013)に基づき実施した静的非線形解析による最小すべり安全率。